

環境学習施設を考える会

大阪産業大学 デザイン工学部 講師 はなしま あつこ
花嶋 温子

2016年12月に「環境学習施設を考える会」を設立しました。全国のごみ処理施設（焼却工場やリサイクルプラザなど）に併設されている環境学習施設をネットワークし、施設の運営やそこで働く人材の育成を支援します。また、廃棄物資源循環学会に環境学習施設研究部会を設置し、環境学習施設で働く方々の研修と情報交換の場を提供します。

全国のごみ処理施設には年間128万人以上の人が見学に訪れています（2009年度の焼却工場の来訪者人数）。全見学者中72.5%が小学生です。そして、全国の小学4年生在籍者数の83.1%が、焼却工場を訪れています。1980年から実施された文部省（当時）の学習指導要領に「廃棄物について学ぶ」と記されました。すでにそれから36年経過しています。その間ずっと、全国の小学4年生はごみ処理施設に見学に訪れていました。その割合を日本の年齢別人口構成に当てはめて計算すると、すでに日本の総人口の1/3以上が、ごみ処理施設を見学した世代になっています。

科学館や博物館は人口の多い地域に集中していますが、ごみ処理施設（焼却工場やリサイクルプラザなど）は全国津々浦々にあります。現状ではさまざまな状況におかれた施設があります。焼却工場の運転で手一杯にもかかわらず見学者対応もぎりぎりの人手で頑張っている施設もあります。一方、循環型社会の話だけでなく、低炭素社会や生物多様性の話もわかりやすく伝えている施設もあります。

さらには市民協働の核となっている施設もあります。日本のごみ処理施設の環境教育力は、全体を合わせると大きな力です。国もESD（持続可能な開発のための教育）の一翼を担う施設として計画に入れています。しかし、自治体ごとに運営されてきたため、ほとんど横のつながりがありません。

「環境学習施設を考える会」は、「地域に元気とやる気を育む環境学習施設」を旗印に、全国の環境学習施設をネットワークし、施設の運営や環境保全に取り組む人々の育成を支援します。これまで、2010年には、全国の775の焼却工場を対象にアンケート調査を実施しました。また、2015年にはリサイクルプラザを中心に全国の1,553の施設に再度アンケートを実施しました。さらに、2016年3月20日には、兵庫県川西市にある国崎クリーンセンター啓発施設「ゆめほたる」において、設立準備会を開催し、北は北海道から西は広島まで、自治体や施設を運営する指定管理者の皆様など18人の方にお集まりいただきました。そして2016年12月7日には、大阪府吹田市の資源リサイクルセンター「くるくるプラザ」において、全国から81名のご参加のもと、設立記念講演会と設立総会を実施しました（写真1～4）。また、情報交換と研修の場として、「廃棄物資源循環学会」の研究部会（環境学習施設研究部会）としての活動を始めます。

みなさまのご参加をお待ちしています。

【対象者】

環境学習施設（一般廃棄物や産業廃棄物の焼却工場、リサイクルプラザ、最終処分場などに併設された啓発施設や、独立した環境学習施設、博物館など）で環境学習のアレンジやサポートをする方々とその所属組織

【活動予定】

- ・ ネットワークの構築
（交流する機会の企画）
- ・ 運営ノウハウの共有と評価方法の検討
- ・ 施設独自のリソースの相互補完や啓発プログラムの共同開発等

環境学習施設を考える会

代 表 高月 紘
（京エコロジーセンター 館長）

幹 事 長 花嶋温子
（大阪産業大学デザイン工学部
講師）

事務局長 鈴木榮一
（国崎クリーンセンター啓発施設
所長）

連絡先 環境学習施設を考える会

〒666-0103

兵庫県川西市国崎字小路 13 番地

国崎クリーンセンター啓発施設

（担当：鈴木榮一）

TEL：090-3270-0658

メール：e-suzuki@kunisakicc.jp

facebook ページ

([https://www.facebook.com/facilities.](https://www.facebook.com/facilities.env.edu.888/)

[env.edu.888/](https://www.facebook.com/facilities.env.edu.888/))



写真 1 設立記念総会のようす



写真 3 中瀬先生講演



写真 2 高月紘代表



写真 4 後藤圭二吹田市市長